

# 近世哲学研究

## 第 2 号

- 
- カント哲学における「経験」概念について —— 福谷 茂 1  
——「世界」概念導入のための端緒として——
- ヘーゲルのコルポラツィオン論 —— 早瀬 明 21  
——市民社会の団体主義的変革に向けた  
ヘーゲルの試み——
- 工学はどういうタイプの学問か —— 齊藤 了文 39
- 信仰の情熱とその逆説 —— 田中 一馬 65  
——ケルケゴール『おそれとおののき』に  
おけるアブラハム解釈をめぐって——
- ハイデッガーのヘーゲル解釈 —— 橋本 武志 85  
——意識の二義性と意識の転換——
- 

1995

Epistola VIII

京大・西洋近世哲学史懇話会

## 編集後記

創刊号より十ヶ月にして、「近世哲学研究」第二号をお届けする。昨年度は、年度末ぎりぎりすべり込みセーフという形での発刊であったが、今年度は掛け値のない年内の刊行を目指し、編集委員一同の努力で何とかこれを実現することができた。

ところで、顧問の酒井修先生には、本年五月めでたく古稀の寿をお迎えになられた。先生には本会の発足以来、たえず全面的な御指導を仰ぎ、本誌の発刊に際しても多大の御支援を賜ったことは御承知の通りである。先生のますますの御健勝と御活躍を祈念しつつ、本号を先生の古稀をお慶びするささやかな記念とさせていただきたい。

本号には、依頼論文三篇と応募論文二篇を収めることができた。これまでドイツ哲学関係の論文がすべてであったが、今回は最新の工学の哲学に関する論考をも含み、とりあえず本誌の幅と厚みをいくらかでも増すことができた。執筆の各位に厚く御礼を申し上げるとともに、応募論文の審査に御協力頂いた四名の方々にも深謝いたしたい。

今後も、内容のいっそうの充実と拡張を目指し、また年内刊行のペースを保持していく所存である。相変わらぬ御支援をお願いしたい。

編集委員会		代表
委員	北岡 武司	蘭田 坦
	倉田 隆	
	田中 一馬	
	橋本 武志	
協力	子野日俊夫	
	吉川 康夫	

## 執筆者紹介

福谷 茂	東京都立大学助教授
早瀬 明	立命館大学非常勤講師
齊藤了文	大阪体育大学助教授
田中一馬	大阪体育大学非常勤講師
橋本武志	高野山大学非常勤講師

(執筆順)

### 近世哲学研究 第2号

1995年12月16日発行

編集・発行 京大・西洋近世哲学史懇話会  
編集代表 藺田 坦

〒606-01 京都市左京区吉田本町  
京都大学文学部西洋近世  
哲学史研究室内  
TEL (075) 753・2813  
振替 01080・3・31430

印刷所 協和印刷株式会社  
〒615 京都市右京区西院清水町13  
TEL (075) 312・4010(代)

定価 1200円 (本体 1166円)

**STUDIES**  
**in**  
**MODERN PHILOSOPHY**

No. 2

---

Shigeru FUKUTANI	: Über den Begriff der Erfahrung bei Kant	1
Akira HAYASE	: Hegels Lehre von der Korporation — Sein Versuch einer korporativen Reform der bürgerlichen Gesellschaft —	21
Norifumi SAITO	: Intellectual Features of Engineering in contrast with Natural Science	39
Kazuma TANAKA	: Passion of Faith and its Paradox — over the Interpretation of Abraham's Story in Kierkegaard's <i>Fear and Trembling</i> —	65
Takeshi HASHIMOTO	: Die Hegel-Interpretation Heideggers — Zweideutigkeit und Umkehrung des Bewußtseins —	85

---

1995

Epistola VIII

Published by  
The Society for The History of  
Modern Philosophy  
at Kyoto University